

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ

〈編集〉
加藤晴生 生田豊
原信二 木下了
佐々木 川石

〒208 武蔵村山市大南
2-26-12 頼原信二郎方
TEL (0425) 65-1839
(毎月1回発行) 定価100円

今年の活動も

ヤッパリ盛り沢山!

元気に参りましょう

幹事会から

名古屋稲グリ初の演奏会開催、第八回OB四連、来年のOB会結成四十周年事業等に向けての幹事会が、二月二十三日(土)午後六時から、新大久保一庄やで開催された。出席者：志賀会長以下二十三名。議事及び討議結果は以下の通り。

一、今後のスケジュール(左掲)

▼「逍遙祭」出演承認

六月九日(日) 詳細後報

熱海市観光会館

▼桜楓合唱団定演賛助出演承認

十一月五日(火)

東京芸術劇場(池袋)

出演 混声ステージ(曲目選考中) 指揮 田中信昭

稲グリ活動日程

3月26日(火)	東混練習場	18:30~21:00	OB四連曲
4月2日(火)	"	"	"
9日(火)	"	"	"
16日(火)	"	"	"
20日(土)~21日(日)	名古屋稲グリ「合宿」 愛知県勤労福祉会館		
23日(火)	東混練習場	18:30~21:00	OB四連曲
※以後毎週火曜日練習。追加練習日後報			
5月5日(日)	名古屋ゲネプロ	午後	於名古屋
6日(月)	「第1回名古屋稲グリ演奏会」 14:00 開演 電気文化ホール		
25日(土)~26日(日)	OB四連強化合宿 於ロッジ・コニシ(河口湖)		
6月9日(日)	特ステ「第12回 逍遙祭」	出演 熱海市観光会館	
7月7日(日)	OB四連・東京地区合同練習		
13日(土)	ゲネプロ 於大阪		
14日(日)	第8回東西四大学OB合唱連盟演奏会 大阪フェスティバルホール		
10月20日(日)	特ステ・早稲田校友大会	出演 大隈庭園	
11月5日(火)	第22回桜楓合唱団定期演奏会	賛助出演 東京芸術劇場(池袋)	
12月8日(日)	第10回グリーンクリスマス	(会場未定)	
21日(土)	コーラス・イン・マリオン	(五回目) 有楽町朝日ホール	

▼校友大会での演奏曲に「人生劇場」を加えること及びその編曲を耕納さん(三七)に依頼することを決定。
二、OB会結成四十周年記念事業実行委員会編成
人選を幹事長に一任すること承認。

▼第二十四回定期演奏会
平成四年十月三日(土)
東京芸術劇場大ホールで開催承認

*なお、記念行事の一環として同定演を関西に於いても開催する案については引き続き検討を重ねることとなる。

▼海外演奏旅行
平成四年のゴールデンウィーク実施案にて検討する。訪問先はアメリカ又はヨーロッパ(含む東欧)。

三、本年四月一日よりOB会事務所を福井事務所から左記に移すことを承認。

東京芸術劇場(池袋)
混声ステージ(曲目選考中) 指揮 田中信昭

早稲田文化センター(早進社内)
三〇三三三二〇八一七七一

四、OB会資産の運用
元本保障を条件に三〇〇万円までその運用を会計に一任することを承認。

五、稲グリ「友の会」
四月一日正式発足。

東京での合同練習は七月七日(日)に決まる

副会長

富永 侃(三五)

第四回目的のOB四連マネ会が三月五日(火)、大阪肥後橋の「徐園」で、打上げ候補会場の下見と舌見を兼ねて開かれました。

議題は、①予算案の確認、②合同ステージ曲「月光とピエロ」の練習日、会場及び楽譜作成について、③ステージ構成について、④打上げ会場について、⑤その他、

のメンバー追加。T1重政(五三)、B2村上(二三)。ご苦労様でした。

友の会会長は会員の中から選出する。当面の運営は担当マネの清水実さん(三八)にお願いすることを承認。

■なお、事務所移転に伴い当面の連絡先は次の通り。

*全般にわたる事項
加藤幹事長(三七)

公〇三三三二八五二四二二(勤)

公〇四七一三二二五四二三(自)

*稲グリ新聞、逍遙祭、ユニフォーム等

公〇三三三二九一一五六一(勤)

公〇四二五五六五一一八三九(自)

*会計全般
石原会計(三五)

公〇三三三二四三二二五八七(勤)

公〇四七四一三四一〇五三七(自)

*OB四連、名古屋、合宿関係
小俣マネ(三八)

出席記録

	☆	2/19	26	3/3	5	12	19
T1		10	11	13	8	12	13
T2		12	8	10	11	10	15
B1		10	7	8	19	16	17
B2		15	13	14	13	18	17
		47	39	45	51	56	62

(☆=東京ドーム・クリスタルH特ステ)

B2
松原 優樹
土岡 一夫
松井 修平
重岡 哲郎
平賀 英彦
水野 博文
中村 正次郎

T1
中村 正次郎
T2
水野 博文
B1
松原 優樹
土岡 一夫
松井 修平
重岡 哲郎
平賀 英彦

練習状況：若手トップ増強が急務
四連で歌う「十の詩曲」「月光とピエロ」は、いずれも無伴奏男声合唱の魅力が十分過ぎるほどの曲。若し「十の詩曲」では歌詩を味わい、情熱(万年青年の稲グリなら大丈夫!)をもって怒濤のような演奏をした方がいいのであるが、それには常連メンバーの限りなく皆勤に近い出席率と、新たなメンバーの参加による人員増が期待される。

山本指揮者(五七)の熱意にほだされて一生懸命歌っているうちに、四連でやる五曲全てをさらい終え、曲によっては細部に進む段階となった。参加しようかどうかと迷っておられるOB諸兄には「このチャンスに逃すなかれ」と申し上げたい。最近の練習光景は、最後列に若手(現役を含む)がズラリと並び、アンサンブルを盛り上げており、若手に限って言えばテナリ系にもう少し新メンバーがほしいところである。

《最近の新、久々メンバー》

「ハミダシ編集後記①」今号には中野昭さん(第二面)と飯沢郁郎さん(第三面)の二つの寄稿がありました。

ガンバレ名古屋稲グリ(五月六日・電気文化会館ホール)

まだまだ足りないぞ応援メンバー

「どうしても名古屋演奏会を実現するんだ!」と、二十人に満たない名古屋のOBが必死で頑張っています。三月十二日(火)の練習日には、名古屋高橋克会長(三六)が東濃練習場に顔を出され、重ねて協力を要請されました。四年前の大阪稲グリ三十周年記念演奏会には三十名もの東京メンバーの参加で大阪メンバーの面目をほどこし、喜びを分かち合うことができてきました。今回も大勢の参加で現地メンバーを勇気付けようではありませんか。彼等の今後の活動のためにもどうしても必要なことなのです。

東京メンバーのお手伝いステーションは、第三ステージの「ルロイ・アンダーソンの世界」と第四ステージの「ア・ラ・カルト」稲グリ「世界」です。「ルロイ」は練習用テープもあります。「稲グリ」の世界は稲グリ愛唱歌集「ソング・オブ・ワセダ」から全曲出ますので、当日日帰り出演でも十分です。是非奮ってご参加ください。五月五日(前日)宿泊希望者には、名古屋東急インにツイン(一室(二〇人分)確保中。それに、「とうきゅうパック」ご利用の場合にはJRの乗車賃が二〇%割引になります。すぐにお申し出を!

トステ第2弾頭末記 指揮者、舞台から 転落寸前でセーフ!

湾岸のドンパチが収まった三日午後、オーブン戦も近い後楽園に稲グリ三十三周年にゴロを合わせ、創立三十三周年にゴロを合わせ、三十三分三十三秒に薬玉割りのハイライトをセッパ、その前に創業者の同窓に威勢良くハモッてくれとの依頼であった。任掛人として大安の日曜日午後、果して三十三人以上の仲間が集まってくれるかが心配だった。打矢君は中学以来の友人であり、彼の一世一代の晴れ姿である。「出来る丈同世代のオジンを集めて欲しい」との注文に応じてやりたかった。さて当日、何と中岡大先輩を始め

四十五名ガッチリ堂々のド迫力で会場を圧倒、あとの自衛隊ラッパが気の毒であった(時節柄これも止むを得ないか)。事前の打合せでは舞台を大きくと申入れていたが、耕納さんの招きで打矢社長と十五名のOB(稲グリ小林春樹氏や江田島仲間を含め)がオンステは舞台から転落寸前の危機に見舞われた。ところが客席の寸評では何時もに較べ高音部が優勢、民謡ものが受けた由(若手の参加が安齋ステマネのPA作戦勝ちか?)最後の祝辞では小学校同窓という越智経企庁長官が「二〇〇二年の二月二日をまた元気で集まろう」と締め括った。その時オンステを果たすのはドナタかな? ウチヤが掛ること必定、お楽しみに。諸兄本当に有難う。B2加納 記

現役の秋から春

◆本紙第八十号の編集作業による半徹夜状態で、現役グリーの第三十八回定期演奏会を聴くべく渋谷公会堂へかけつけたのは、昨年十一月二十四日(土)。退屈な演奏をやってくれればすぐにでも熟睡可能である。しかし眠るどころではない。プログラム構成もよいが、何より福永先生が彼らの好演を裏付けている。コグライと日本民謡を振った鎌田浩二君がユニフォームもはち切れんばかりに大きく見えるのも当然。この時の四年生が新OBとしてOB合唱団に加わり、福永陽一郎追悼演奏会を盛り立てたのは記憶に新しい。◆去る二月二十二日(金)には、目黒区公会堂で第四十回送別演奏会。昨年、新OBのステージに劇(ほとんど夏合宿の演奏会)のノリが導入されたが、今年も見事に踏襲され、場内の若手OBや他校合唱団員は大喜び。合唱の練習より遙かに大変だったろうと思いつつ楽しんでしまった。そして、新生現役ステージの「メンデルスゾーン男声合唱曲集」が素晴らしい。ソノヤゾリが随所にありメロディも耳に親しいものばかりで全く退屈させない。パルトンのサブパトリ、若林君がほんの一言のソロのためにはわざわざ前に出てウケをとるのもよい。「新生グリー」ここにあり、とばかり気合が入り、特に新四年生が在学中最も緊張するステージという例年の位置付けは少なくとも今年に関しては当たらない。外見が福永先生チックな田中宏君がよく健闘した。今後は楽しみである。◆二月二十六日(火)は我が稲グリOBは十八名中六名(鎌田、土岡、中村正、松崎、水野、山内)参加。彼らだけで歌った「オールド・トム・ウィルソン」雄々しく進もう。◆量にOB一同度胆を抜かれた。◆ありがとう。今後よろしく。(現役担当・佐々木豊 記)

拝啓

木の芽もほころび、春寒緩む時節となりました。ご健勝にお過ごしのことと存じます

わずか二人の為政者によって引き起こされた感の中東の惨事が、曲がりなりにも決着を見たことは同慶の至りです。

さて、稲グリ新聞先号に掲載された貴台の声明ですが、もちろん、いわゆる「引退声明」と受け止めたくはなく、一歩下がって稲グリに対応するとの意向と一応は理解しながらも、正直、少なからぬ衝撃を禁じ得ませんでした。昨年来温かいさかもある所なく、常にTIIの最前列に陣取り、ステージではGパン、スニーカーをピタリと決めて喰らせるなど、体調も絶好とお見受けしていたんです。

引き際を肝要とする、筋の通った貴台ならではの美学とは拝察するものの、自身華甲(編集局注II六十一歳)を迎え、中岡、渡辺両先輩のあり方に追従しようとは心掛

中岡先輩への書状

T、 中野 昭(二七)

ける小生としては、ひと言無からざるべからず、と粗信を呈上する次第です。貴台は渡辺先輩とともに、稲グリの象徴であり希望です。超OBとして妙な大物ぶりのカゲも見せず、得も言われぬ大きな存在感を漂わせるなんぞ、並みじやありません。象徴は退位できないのです。更に貴台は、ご自身で誇りにさ

れているように、創立から今日までの稲グリ史の生き証人ナンバー1です。体調の許す限り真正正銘の現役活動が続けられ、歴史の風化を防いでいただきたく。小生、クラブ存続の危機、見事にそれを乗り越えた時代には、名を連ねてはいながら「仕事の多忙」という尻理屈を錦の御旗に、練習から離れていました。六、七年前、定年

近くなつてからオズオズと(でもないかな)また練習に顔を出し始め、「稲グリに定年なし」などと嘯くとは何たる見か!かの時代の辛苦を共にされた貴台、渡辺先輩始め諸兄の前で内心慄慄たらざるを得ません。いささか私事にそれました。さて、貴台のいわれる「体力の減退を自覚」し、「皆の足手まといに

なつた」実感で退かなきやならないとすれば、これはえらいこと、小生ごとき大いにうらたえます。ひと様の体調のこと、無責任な放言は許されるべくもありません。が、かつての大病に打ち克ち、すっかり若返られた貴台の活力の元あったことと拝察します。いま消極的になられてはかえって覇気を

損うのでは、と余計な心配をしています。あれこれ御託を並べてきました。が、つまり、いまままで通り、正規のメンバーとして「無言の重き」をなしていただきたい、というこゝとに尽きるのです。あの声明は大勢の仲間を救うにせよ。四十年前の「もくせい会」時代から貴台ご夫妻に呢懇をいただいている家内も、一読、絶句してしまいました。

本状、私信でお出ししようと思つていましたが、かなりの仲間が同じ思いを抱いたようす。拙文を顧みず公開書状とさせていたのだ取り下されば幸甚と存じます。いづれ拝顔の上、奥方様によろしくご風声下さい。 敬具 一九九一年弥生中旬 中岡 敏雄様 なかの あきら

同期会、一転娘の売込み合戦へ

T₂ 阿部 美博

〈三十年卒同期会〉

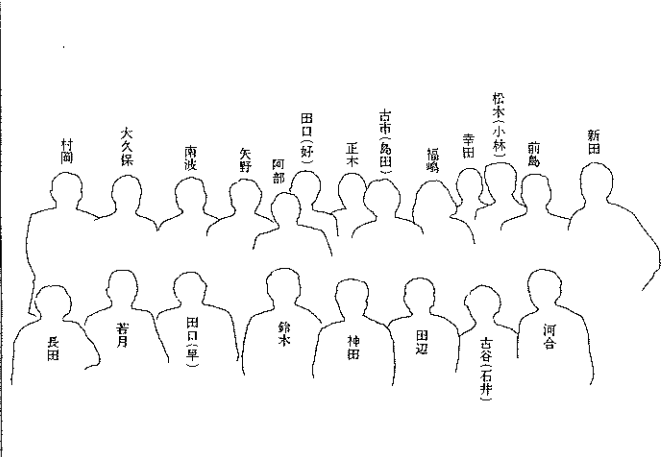
昨年秋、恒例の「グリーOB還暦を祝う会」で久しぶりに会った同期数人で「在京のメンバーだけでも一杯飲む機会を」という何気ない話がかきつけとなり、新田君の音頭で二月二日(土)、八重洲口の「海女小屋」に招集がかけられた。

普段は私くらしが稲グリの常連と言えぬメンバーがいよいよ結束力の弱い同期生、定めし集まりは悪かるうとの予想に反し、奈良から田口(好)君がかけつけるわ、現役時代ほんの数日間存在したルモコールからも三名がかけつけるわで、総勢二十一名が集まったのは驚きも少し、且つ感激した。

卒業以来初めて会う人もいて、一瞬「お前誰だっけ？」なんてケースもあったが、飲むほどに酔うほどに昔話に花が咲き、各人の近況報告でも、皆、現役のバリバリでそれぞれ

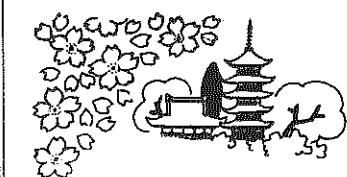


活躍しているのは心強い限りであった。ちなみに、性懲りもなくコーラスを楽しんでいる人が七名いたのは敬意を表したいが、早い機会に稲グリの戦力となってくれることを期待したい。



宴もたけなわ、若月君が娘の花婿募集を始めれば、A君、N君と続々娘の売り込み合戦。この時ばかりは企業戦士の敵しい男の顔も、優しい父親の顔へと変わったのが印象的。しかしM君のとどめの一言「おれはもうおじいちゃんだぞ！」に一同ガクツ。

最後に「秋には同期会を軽井沢でやろう」と再会を約し「ハルトモ」をハモって二次会の会場へと移動した。



奈良原さんの嘆き：

「これなんか、いいねエ」「お客様、このダイニング・テーブルは、材質もよろしいですし、造りもしっかりしています。お値段も手頃で人気があります。ハイ。」

「じゃあ、これにしよう。ハイ。」

「ところで、こちらの奈良原さんの知り合いなことだけど、いくらかさービスということはないか？」

「ああ、奈良原部長のお知り合いの方ですか。それなら黙って少し引かせていただきます。ハイ。」

「家具の大正堂某店にて。」

稲グリメンはこうして色々の家具を安く購入して、火曜日の練習のあと、「庄や」で奈良原さんにお礼を言う。「いやあ、奈良原さん、こないだお陰様でテーブルを安く買わせてもらいました。奈良原さんには初耳のことである。「エッ? どうして」「実はこれこれ」。

そこで、彼の嘆き。「どーして直接言ってくれないの!」「家具を買うときは、まず、適当な大正堂店で自分が買いたい品をじっくり見て、コレと決めたら、私に言ってもらいたい。そうすれば、もっともつとサービスできるんです。」

「届けるのも関東地方なら大抵OKなんですよ。」

「一次からは是非そうしてくださいね。」

奈良原さん、稲グリメンに喜んでもらいたい「の一心で悔やしがら。OB諸兄、大正堂で家具を買うなら奈良原秀三さん(三六)に直接連絡を。」

寄稿 娘の結婚式

T₂ 飯澤郁郎(三三)

娘の結婚式とは決して心はずむ日ではない。と言って新郎に不満があるわけではないが、盛大のようには憂鬱である。父親の最初の問題は半年まえの結婚費用の捻出から始まる。今年娘と長男の結婚式があるの、ゴルフの会員権を売ることで、妻に安心を与えていた。

この五年間、所属のゴルフ場には数回しか足を運んでいない。だからさほどの愛着もない。ところが予定した市場価格はいざ売る段になって、四十%近くも下落してしまっただ。

妻は買手がついたと言うゴルフ業者からの連絡で入金先の銀行名印鑑証明などの手続をした。

同時に娘の式用の買い物の発注をした。ところが買手はゴルフ場

の規定に合わず不合格となってしまう。規定は所定のランクのゴルフ会員権を別に持っているといないと入会できない規則がクラブにはあった。

そう言うむずかしさのあるゴルフ場であるから希望の期日には間に合わないことがわかり、急遽金策を再考することにした。

苦慮の後、会社の持株会の千株に満たない端株を処分することで、後はボーナスを当て込んで妻の胃の痛みにも及んだ問題を解決した。妻はしみじみボーナスを頂いて「ありがたい」と言っていた。

新郎は眼鏡をかけ、年令不相応に落ち着いている上に、常識的に娘にとっては面白くないところはないタイプのもであった。

礼儀正しい好青年であるが我が家の全員B型のタイプから見ると全くテンポが違う。

娘の方は何人かの友人がいたが新郎は外国に何れ赴任するので嫁を選び急いでいた事情があった。

私も特に不賛成でないと言った。とは娘は知っていたが気持はゆるんでいた。新郎の赴任先ルクセンブルク新工場が正式に決まるに及んで、会社の現地での施設待遇面も完備していることがわかり次第に決意して行った。

娘には、兄と弟がいる。式が近づくとつれて異変が見え始めた。弟は風邪で九度の熱を出した。「俺が死んだら結婚式は中止になるか?」と妻に聞いた。

「結婚式はそれより前に決まっていますから予定通りよ」と答えていた。弟の次郎は結婚を阻止出来ないうものである。

次郎は姉の頭を何発もピシピシ声を上げて軽く叩いていた。

娘は、その都度「やめて、やめて」と騒いだ。

「俺にこうしてもらえるのも、これつきりだぞ」と言っただけ、いじめるふりをした。

長男は休暇で式の三日前から家に帰って来ていた。彼はそれを見て、げらげら笑い、止める風でもなく、そのセレモニーと一緒に興じていた。

私は親子の断層を見る思いで、そのストームの大きくならないことを願っていた。

「うるさい」と一喝するには彼らの底流にある何物かを傷付ける恐れを感じた。

最後の夜は柏のレストランに、家族五人で出かけた。

当日は長男、次男は私の車で、娘と私と妻は用心のため電車で向かい、帝国ホテルのグリルで、彼らと落ち会ってから、会場の麻布グリーン会館に乗り込んだ。

(つづく)

（株）家具の大正堂・建築部
 ☎〇四二七―四九一―一五七三
 奈良原 秀三

【ハミダシ編集後記②】九州宮崎のクマンこと大古殿(おおふるとん)さん(三八)から氏が主宰するフルトン男声合唱団のステージ写真が送られてきました。三十五名ものメンバーで「富士山」を歌い上げた由。健在。この七月はキント大阪に現われそうです。長岡さん、「十の詩曲」の楽譜をクマン氏に送ってください。(E)

「ハミダシ編集後記③」母校の安部球場跡地にできた新中央図書館が四月一日オープン。OB(ただし卒業生)も利用可能です。入館手続き等詳細は図書館総合インフォメーションカウンターまで。(〇三二〇三二〇三二四一四一)まで。(S)

「五十四年卒同期会」
フアマミア五四年同期会

B 藤 松次郎



一月十九日(土)、早稲田奉仕園セミナーハウスにて五十四年卒同期会が開催された。今回は初めて夫人、子供同伴ということになり、メンバー九名に家族を合わせ計二十四名の参加となった。

乾杯のあと、ビンゴゲーム、ダンスゲーム、新聞折りゲーム等ゲーム大会で盛り上がり、子供達も大喜び。

近況では、1Tの奥芝はSB食品で今回の賞品を提供、2Tの江原は東京都民銀行大井町支店、大塚は東京海上新宿東支店、菊地は高島第二中学教師、野口は電通本社、吉村は森永ラブ伊勢佐木町店、1Bは全員欠席、2Bは小野塚がソニー、板東がアメリカ帰りで安田信託本社、小生が富士銀行赤坂アークヒルズ支店と、それぞれ各社の中堅として大活躍中。

今回幹事として働いてくれた1

「ワセグリ」を振り返って

新OB 川越 太郎(H三・前部長)

私にとってワセグリは、大きな心の拠り所であった。高校時代に大阪の四連での演奏に感動し、それから毎日「都の西北」のテープを聞いては「必ず早稲田に合格してワセグリに入るぞ」と、決意を新たにしていた私でしたが、念願がなかってしまったそのワセグリは、決してそんな私の期待を裏切りませんでした。

ワセグリは、部員それぞれの強烈な個性のぶつかり合いと、真しに音楽を追求するという点での結

東とが、不思議に両立している、魅力的なところだ。そこは(某大等とは違って)高校合唱の延長ではなく、大学生の合唱をすゝるところであり、私はそこに極めて新鮮味を感じました。「和して同ぜず」という言葉(あのウサン臭い、T岡とかいう漢文口調の男から教わった)があります。ワセグリとはそういうところだと思えます。もっとも部長としての私の立場からすると、グリーメンのベクトルのバラバラさは困ったも

Tの加藤は風邪のため当日欠席：誠に残念。

とにもかくにも、家族同伴は初めての試みとあって、奥方同士が意気投合し、夫人会を作ろうという動きも出てきた程。次回は秋に家族旅行をとの幹事からの提案に参加者全員一賛成!であった。

最後に稲グリへの参加を呼びかけ、皆で応援歌を歌い、盛大なうちに閉会。奥様同伴だけあって、残った料理はしっかりと全部持ち帰った。

二次会は奥芝宅へ野口、小野塚、小生家族が押しかけていった。そこで、今回出席できなかった同期へのテレフォンコールと相成る。

1Tの加藤(東京・東大和市)、井出(長崎)、山田(宮崎)、1B太田(神奈川)、三宅(大阪)など次々と遠方にかける。また、現役時代と現在とのお互いの交際ぶりに思わず手が頭やお腹にいったりで、すっかり話しが弾んでしまった。

夜更けて眠っていた子供達を起してタクシーで家路に。今日だけはお父さん、お母さんに付き合ってくれた子供達、どうもありがとう。

これからも同期同士の親交をより一層深め、未永くフアマミアな同期会を作っていきたいもの。

「五十七年卒同期会」
一時帰国の松岡氏を囲んで

T1 安宅 望

「陽ちゃんコンサート」の熱気もさめやらぬ二月十六日(土)、五十七年卒の同期会が新宿の「銀座アスター」で行われた。

今回の同期会は、スペインから久

しぶりに一時帰国した松岡氏を囲んでのものである。彼は卒業した年から現在までヨーロッパを転々としていたコスモポリタンで、ここ数年は十二年越しの恋人の住むバルセロナ



に落ち着いているようである。思えば二年の時の「ヨーロッパカンタツト」からの付き合いであるから、運命的な出会いとは正にこのことである。なあと一同感慨を深めた。また井口氏も未だ独身であるのは、その時のスペインの彼女との付き合いがあるから(もっとも彼女はとくに結婚している)だそう。日本人とスペイン人との不思議な縁である。久しぶりだったのは松岡氏だけではない。卒業以来全く行方不明だった岩崎氏が劇的な復活を告げた。それも四月結婚というビッグなニュースをひびかせて。OB四連でも、あの「グリーンクラブアルバム第六集」の「エリー・キヤナル」に残した美声を聴かせてくれるという。

今年のOB四連はご承知のとおり、我々の代の学指揮であるマッキーと山本正洋が「十の詩曲」で勝負する。定演のライブがそのまま市販レコードになる(三木稔のレクイエム)という快挙をなした。五十七年卒のパワーを結集して、是非マッキーを盛り立てなければならぬ。今回も東京近郊の同期十二人が集まった。円い卓を囲んでの久しぶりの愛唱歌も絶妙のハモリを見せて自画自賛。ちなみに我々の代のテーマソングは、「青い照明」の終曲「高原」(別名「海だべがど」)である。「十の詩曲」も三番、五番、六番と一気に歌った。最後にマッキーが言った「練習がだめなら本番だけでも、本番がだめなら練習だけでも」という言葉に彼の背負う責任の重さと、意気込みを感じたのであった。二次会は銀座で深夜まで。火曜日の再会を約して別れた。松岡氏は二十三日(土)に最愛の人が待つスペインへ「帰国」するとのこと。また四月には、これまたイギリスに行きつばなしの森田氏が一時帰国する。楽しみである。

当日の出席者は次のとおり。

T1 安宅 望、荒川 金子、熊谷、平田

T2 山本

B1 井口、岩崎

B2 足立、阿部、坪井、松岡